

二〇一五年に、坂口先生はガードナー国際賞を受賞されました
が、私はその時に先生が自己免疫疾患の研究をされていることを知
りました。私は、二〇一一年に、
免疫が自分の肝臓を異物ととらえ
攻撃してしまう自己免疫性の難病
を発症し、今も治療を続けていま
す。坂口先生の研究を知った時は、
とても心強く思いました。

数年前、そんな坂口先生の講演
を聴く機会に恵まれました。その

際、講演会を主催する人を通じて手紙をお渡ししました。自分の病状を伝え、先生の研究に期待していますという内容のものでした。その講演から二ヶ月後のことです。恐れ多くも坂口先生からお返事が届いたのです。大感激でした。そのお返事の中に、私の病気に関するまでは現在動物実験の段階であり、臨床での有効性を確認するまではまだいくつかの段階を踏む必要がある」と、早くに有効な治療法として確立できるよう努めていました。特に「自己免疫疾患の医療も日々前進しておりますので待っていてください」という言葉についてください」という言葉に

4用紙いっぱいに綴られた先生からのお返事。その冒頭には返事が遅れたことへのお詫びまでありました。しかし、文末には私の病気を気遣う優しい言葉もありました。研究者同士ならともかく、私のような一主婦に対して、このような心遣いができる先生のお人柄に深い感激を受けました。

ノーベル賞を受賞され、テレビで何度も先生を拝見しましたが、その映像からも温和なお人柄が伝わってきました。坂口先生からいただいた手紙と本は私の宝物です。今後益々先生の研究が進展し、臨床の場で応用できる日が来る一とを期待してやみません。

主婦
六十歲

坂口志文先生の

いお人柄
飯田 尚子

國語教室

さざなみ国語教室

第525号 2025年12月25日
発行者代表 吉永幸司

八津市柳川2-11-3

発行所 滋賀児童文化協会
NPO 現代の教育問題研究所

はとても勇気づけられ、明るい希望が持てました。

第一次感想を共有した直後に学習課題を設定し、集団での学習へと展開しがちである。それは多くの場合、教材の主題へ直線的かつ鋭角的に迫る指導になる。しかし、先の実践は「子供一人ひとりが納得の過程の中で、主題へと緩やかに接近していく」という観点で論述している▼当時は「国語重視」の方針があり、特に低学年は全体の授業の約3割を国語の時間（1年7時間・4年8時間）が占めていた。現在は教科数が増え、効率や成果が強く求められる令和の時代である。しかし、「一人ひとりを大事にする」という教育の本質は今も尚、何ら変わりはない▼国語科の学習指導はいつの時代においても教師の願いと知恵から生まれる。

▼手元に1976年(昭和51年)の実践記録がある。その中に「第二章・豊かな心をそだてる読書生活のこころみ」に「ごんぎつねを読む」がある。記録によると、一人の子の「ごんぎつねノート1から17」の感想がある。ごんノート1から17まである。読むたびに感想が加筆され、書き加えられ、書き換えられていく▼次に示す文書は、ノート14に記した感想である。「悲しいのはごんだけだと思つていました。けれども、ごんより兵十の方がもつと悲しいと思えてきました。自分のために、くりやまつたけを持ってきたごんを殺してしまつといつみをつくつてしまつました。」▼業の形を整えようとするば、

テスト勉強

◎しんにようがつく漢字
道速進遠通辺
週遊

提出されたノートには、普段の授業のように「日付」「題名」「めあて」が書かれているものがたくさんあつた。クラスで紹介すると、「めあて」が書かれたノートが増えた。

水無月二十四日（火）
にがてなしんによう
めあて
しんにようをきれいに、かんべきにする。
↑
◎スタート

三年生の四月から、週に一度は必ず「漢字スキルのテスト範囲をノートに練習する」など、ノートを用いた自主勉強の宿題を出してきた。最初はノートの使い方の例を示し、その通りに書いても良いと伝えた。

学期末テストの前、一週間分の宿題を「テスト勉強」にした。子どもたちの成長を確かめるためだ。

◎
テスト

（）（）（）

ナナフシをかつて、知らないことがあるからです。好きな物、たまごとうんちのちがいなど、上手にかうために知らないといけないからです。これからもかつて、生き物をかんさつしてまとめてみたいですね。

テストのための勉強が、自分のための勉強に変わってきて、いるのを感じるノートだった。

（京都女子大学附属小学校）

国語だけではない。「生活中にもいかせるように勉強する」というめあてのノートには、身近な物の長さがまとめられていた。「防災の大切さを知る」というめあてで、防災グッズや避難場所をまとめた子もいた。「かつているナナフシのかんさつをする」というめあてのノートには、「こんなまとめが書かれていた。

子どもたちのノートづくりは、テ
スト勉強におさまらなくなつ
た。「音読で発表する平家物語を
しらべよう」というめあてで「諸
行無常」「盛者必衰」などの言葉
について調べる子。百人一首が大
好きで、覚えた歌の意味を調べる
子。

友情のかべ新聞の 読みは難しい? 川端 由起

社会の単元と国語の「未來につなぐ工芸品」を合わせて学習する関係から、11月上旬に友情のかべ新聞を学習しました。この単元の指導目標は、◎登場人物の気持ちの変化や性格。情景について、場面の移り変わりと結び付けて、具体に想像することができる。(思ひこみ、読書が知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知(3)オ)です。また、教科書の単元の位置づけでは、「つながりを見つけながら読み、人物の行動や様子の理由を想像する」となっています。初発読みをして、ぼくから見た目線で、登場人物の性格や行動を確かめました。また、物語の最初と最後で、「東君」と「西君」の関係はどう変化したかを考えました。ここまでにはいつも読みの教材においての基本指導パターンでした。そして、おもしろいと思ったところについて、理由と共に考える予定でした。しかし、子どもたちが「ぞつて「先生、このお話を面白いところがわからない」と言うのです。この単元を研究授業で扱おうとは考えてなかつたのと、新しい教科書になつて初めて見る教材だつたのです。私はすぐさま、指導方針を切り替え、「つながりを見つけながら読み、人物の行動や様子の理由を想像する」に切り替えました。そして、この物語の作者であるはやみねかおるさんのこ

教科書の文章は短く、ごんぎつねみたいな古典ではない読み教材では、文章がフラットなことが多いのか、面白さを見つけられない児童がいると改めて気づかされました。これからは、物語教材においては、登場人物の心の動きを考えることも大切です。が、作者の他の教材先読みして、作者の文章や構成に慣れてから、教科書教材を読むことがあるのかなと思いま

(草津市立志津小学校)

◎ しんにようがつく漢道速進遠通

週游

テストのための勉強が、自分のための勉強に変わってきて、いるのを感じるノートだった。

おなやみかいけつ隊

畠中 翔太

三年生が一年生に宛てた手紙
を一つ紹介する。

・どうして水とうは上におくんですか。
・わすれものします。どうしたらいですか。
・ともだちをだいじにするにはどうしたらいいですか。
一年生に困っている」とについてアンケートをとった。その解答を見て、三年生は解決したいと意気込み「おなやみかいけつ隊」が結成された。
まずは班で解決策を話し合つた。流れは以下の通りだ。
①テーマに対して決め方を決める。(例:「一年生でも、毎日できること。」)
②一人一つ解決策を考え、司会の進行で意見を発言する。
③決め方に沿つてどの考えがよいか話し合う。対話が成立するためには、「考えについてわからないことがある時は質問をすること」や「よい考えには共感する言葉をかけること」などのルールを子供達と共有する。
④解決策をまとめらる。

解決策が決まれば一年生に伝えるために、発表原稿を書く人と手紙を書く人に役割分担をして活動した。

一年生のみなさんへ
わたしたちは、「わすれものをへらすにはどうしたらよいか」のいきんを二つきめました。
一つ目は、がつこうにわすれものをしてしまうときのことです。がつこうでは、わすれものがかりをつくつたらいとおもいます。りゆうは、かえりのかいのまえに、わすれものがかりがみんなのつくえをまわつてわすれものがつたら、「わすれているよ。」とこえをかけるとおもいだせるからです。

二つ目は、いえにわすれものをしてしまうときのことです。いえでは、ふでばこ、たいそうふくなどわされるときがあります。いえでは、よるにおかあさんとじゅんびをおわせると、わすれずにがつこうにいけてよ。

これをつづけて、わすれものをへらしてくださいね。

一年生に困っている」とについてアンケートをとった。その解答を見て、三年生は解決したいと意気込み「おなやみかいけつ隊」が結成された。

まずは班で解決策を話し合つた。流れは以下の通りだ。
①テーマに対して決め方を決める。(例:「一年生でも、毎日できること。」)
②一人一つ解決策を考え、司会の進行で意見を発言する。

まいどおおきに 少徳 信

「みんな、今度の音楽会けつぱれよ！」

「先生、けつぱれって何?」「がんばれって意味じゃない?」「こんな会話から「方言と共通語」の学習が始まった。

「けつぱれって北海道の言葉なんや」「他にもある?」「あきじやびよつて沖縄の言葉でびつくりしたって意味なんや。これ知つてないと絶対わからへんな」と話しながら、それぞれの地方で、その場所の生活に根ざした言葉のことを方言と言い、日本全国のだれでも分かる言葉のことを共通語と呼ぶことを確認した。授業はその後、各地の方言や滋賀県の方言を調べたり、方言と共通語のそれぞれの言葉の良さを話し合つたりしたのだが、翌日ある一人が自主学習ノートを持ってやつてきた。聞くと、方言がたくさんあることに興味を持ち、調べてきたとのことだった。

「えらいは自分たちやつたらしんどいって意味やけど、京都とか大阪とかでは言わへんらしい」「先生がきやんすって言い方は、滋賀県の中でも長浜とかの言葉らし

「発問」は、授業において重要な位置を占めている。指導者の投げかけた発問という形の「問い合わせ」が、ついで水面に美しい波紋を広げる。がごとく、学習者の思考を活性化させるることは、めざす発問の在り方である。ように思われる。指導者の論理の押し付けではなく、学習者自身が「考えたくなる」「そう言われれば、確かにそれはなぜなのだろう?」ともう一度考えだす。一方で、文学的な文章の授業を例にする、「この時の（人物の）気持ちちは?」と気持ちや心情を直接問うことが多くみられる。無論、人物の気持ちを読み取ることは国語科の学習において大切なことです。しかし、これは学習者が本当に考えたくなる問い合わせなのである。しかし、この場合は、学習者の思考を動かす（または、ゆさぶる）には、発問の精選は大きな課題である。本当に考えたくなる問い合わせなのである。しかし、この場合は、学習者の思考を動かす（または、ゆさぶる）には、発問について考えたい。

学習者が考えたくなる、
学びに向かう発問へ

△①「ちいちゃん」や「おにいちやん」にとつては、どんな「かけおくり」だったでしょう? 「○○(な)かけおくり」と題をつけると、どうなるかな。
△②「おとうさん」「お母さん」にとつては、どんな「かけおくり」だつてしよう。
「かけおくり」の場面は、音読をたつぱりした後で問うと効果的である。
①では、「すこいい。」と二人とも言つてゐるから、「家族と一緒に『楽しいかけおくり』かな。」
「『楽しいかけおくり』です。わ
けは:」と叙述を基に考えが出される。一方、両親に対しては、「樂しい」と共に、「切ない」「つらい」「やるせない」「悲しい」など、様々な題が出される。「だつて、『記念写真』と言つてゐるから、今日の日を大切な思い出として取つておきたいと考えてゐると思います。」
「次の日の『体の弱いお父さんまで:』という言葉から、お母さんはお父さんを戦争に行かせたくないのかつたと考えています。だから、きつとつら『かけおくり』だつたと思ひます。」
「この様に、気持ちを直接問うてもできる。例えば、高学年の「大造じさんとガン」であるならば

国語実践研究会千葉大会（千葉県教育会館・11月29日）に参加。研究テーマ「継続可能な開発のための教育（E S D）を実現する国語科の授業実践」について研究を深めた。▼実践発表①「自ら考えを形成し読書の楽しさに気付く読者の育成」川名洋一郎先生（千葉県）。実践発表②「問い合わせ」と話し合いを大切にした物語の学習づくり」畠中翔太先生（滋賀県）。実践発表③「批判的に文章を読む活動を通して、自身の意見を再構築する生徒の育成」磯部隼人先生（愛知県）において、これらの国語科指導の実践と課題を明らかにした。▼講演は「継続可能な開発のための教育（E S D）を実現する国語科の役割」について寺井正憲先生（千葉大学名誉教授）がこれからの国語教育について示唆が多く、学びが深かった。▼実践提案②畠中翔太先生の提案は「ちいちゃんのかげおくり」（光村・3年）の実践。読みを深めるための重点として三つを提案した。①「問い合わせ」の重視②話し合いの重視③子ども一人一人の育ちを見守る。特に「話し合い」の重視においては、話し合いの後に記録を残し、それをもとに自己評価をするという試みであつた。特に、自分たちの話し合い活動の実際を文字化した文章をもとにして知るという提案が、特に印象的であつた。

編集後記

▼
12月例会